

第三部 官庁訪問体験記

このコーナーでは、経験しなければなかなか実態が掴めない官庁訪問の様子をお伝えします。後半に内定者の一問一答形式の質問も載せていますので、訪問前のイメージトレーニングに是非お役立てください。

なお、掲載している情報はあくまで令和 2 年度官庁訪問における経験に基づき、内定者の視点から語られたものであり、来年度以降の官庁訪問のシステムや内容は以下と異なる可能性があります。**特に令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響で大幅な変更が行われたため、過年度の形式と大きく異なりました。**

環境省の官庁訪問（一般職試験）の簡単な流れ

官庁訪問前

1 次試験合格後、環境省にメールで訪問希望日を予約しました。その際官庁訪問申込票（面接シートのようなもの）を HP からダウンロードし、パソコン入力してメールに添付して送信しました。官庁訪問 1 日目の前日に自分の訪問日と集合用 web 会議室のメールが届きました。

↓

官庁訪問当日

指定された時間に前日のメールにあった集合用 web 会議室の URL にアクセスし集合。昼休みを挟み、一日かけて複数回の面接を行いました。

↓

2 次試験最終合格後

今年度については、2 次試験最終合格発表日の翌日と翌々日（最終面接）に web 面接を行いました。最終面接では本省に来るか web かを選択できました。

環境省の官庁訪問（一般職試験）の面接

官庁訪問ではすべてがオンラインでした。最初の集合時におおよその開始時間が告げられますが、面接の直前に突然面接用の web 会議室の URL が送られてきて、それにアクセスすると面接が始まります。実施年度や個人による違いもあると思いますが、今年度は 1 対 1 や 1 対 2 の面接が複数回行われました。今年度グループディスカッションなどは行われませんでした。私たちが受けた面接では、1 回の面接は平均して 30 分、内容は官庁訪問申込票に沿ったものやその掘り下げが多かったです。

また面接する側とされる側どちらが原因かは分かりませんが、私は面接中一度通信状況が悪くなったことがあり、その際はビデオを OFF にするよう指示され、その状態で面接を行いました。もし通信が切れてしまった場合は、焦らずにメールに書かれている理工系採用担当の電話番号にかければ対応していただけますので、落ち着いて指示を仰ぎましょう。服装について、官庁訪問はクールビズ期間中に実施されることが多く、半袖シャツを着たり、ネクタイを外したりといった軽装で面接を受けることが可能です。

環境省の官庁訪問（一般職試験）の体験記（質問形式）

-----情報を手に入れづらい…官庁訪問って実際どんな感じ？-----

官庁訪問に向けて準備したことは？

- ミハイル：**情報収集の際は、漠然とホームページを見るだけだとなかなか続かないので、大臣記者会見要旨を読むようにしていました。大臣が会見で話すことは、まさに今環境省が何を考えているのか分かりやすく説明されたものです。少しでも環境省に関心があるなら、試しに環境省ホームページの報道・広報のページを訪問してみてください。きっとあなたの心に響くテーマがそこにあるはずです。
- トサッコ：**自己分析と環境省の業務内容の確認を行いました。特に、志望動機と自己アピールは相手にしっかり理解される必要があると思ったので、簡潔に分かりやすくまとめるように何度も書き直しました。

当日のオンライン環境、手元に準備したものは？

- ミハイル：**すべてがオンラインだったので、カメラとマイク搭載のパソコンが必須でした。またパソコンのカメラとマイクをオンにした状態で自分がどう映っているのか友達と確認しあったりしました。その結果、自分の顔を卓上ライトで照らした方が良いことなどに気づくことができました。
- トサッコ：**研究室から一時帰宅し、自宅で面接を行いました。手元には環境省のパンフレットと面接原稿、空き時間に考えをまとめるためにメモ帳を用意しました。

オンライン面接で良かった点、悪かった点は？

- ミハイル：**良かった点は何といっても地方から上京するための時間と労力、費用が減ったことです。今までそれらをネックとしていた関東圏以外の学生にとってはかなりのメリットだと感じます。悪かった点は一緒に官庁訪問をしていた仲間と交流する機会が全くなかったことです。最初web 会議室に集合した際に仲間の名前は把握できるものの、出身や専攻のことなど話す機会がなく、これを書いている秋になっても同期の顔をまともに見たことがないというのは寂しいところです。
- トサッコ：**良かったのは、対面でない分いくらかリラックスして臨めたことです。相手からの見え方を考えて、カメラ目線でゆっくりと話すことができました。悪かった点は、カメラ目線だったので相手の表情や様子が見えないまま話すことになってしまった点です。

官庁訪問全体の印象は？（他省庁も含め）

ミハイル：民間企業の面接と変わらないという印象です。

トサッコ：環境省しか訪問していないので他との比較はできませんが、雰囲気は良かったと思います。自分の言葉でしっかり伝える能力があるかを見ている印象で、圧を感じる質問はありませんでした。

環境省ではこういった質問、話をされた？

ミハイル：民間企業であっても聞かれる志望動機、学生時代頑張ったこと、自己 PR 等は聞かれました。公務員に限らず、民間企業のインターンシップや説明会を通じて、自分の就職活動の軸が何なのか、就職活動中ずっと考え続けたことで、面接でもブレずに自分のことを伝えられたと思います。また環境省に入って何がしたいかも聞かれましたが、難しいことを言おうとせずに、自分の関心のあることを素直に伝えましょう。その上で前向きに取り組んでいく姿勢があれば、知識がなくても心配することはありません。

トサッコ：志望動機や自己アピール以外には、併願先や進路の話、大学の学部・研究室を決めた理由や興味のある業務についても聞かれました。

環境省の面接で気を付けていた点は？

ミハイル：自分の就職活動の軸はどこの就職先であってもその職場に貢献することだったので、例えば志望理由を聞かれた際は、民間企業、地方自治体、他省庁それぞれでの仕事と、環境省での仕事を比較したとき、環境省での仕事のどこに魅力を感じたかを整理した上で、分かりやすく話すことを心掛けました。

トサッコ：併願せず環境省に絞って訪問したため、意思の強さを伝えるためにも志望動機ややりたい業務については特にはっきりと伝えるように気を付けました。

環境省の面接で苦労した点は？

ミハイル：ときどき、環境省に入ってどんな役割を果たしたいですか、など苦労する質問も来ますが、思い付きではなく自分の就職活動の軸に照らし合わせて考えてきたことを述べれば大丈夫です。

トサッコ：一般職採用が始まったばかりで、業務やキャリアについて情報が少なかったことで少し苦労はしました。

空き時間はどのように過ごしていた？

ミハイル：突然送られてくる面接用会議室の URL のメールをすぐチェックできるよう、ひたすら自室のパソコンの前でメールの更新ボタンを押し続けていました。それに疲れたら自分の就職活動ノートを見返したり、自分の面接練習動画を見たりしていました。空き時間は面接官の仕事との兼ね合いもあり、1 時間～2 時間以上になることもありました。

トサッコ：手元に用意したパンフレットや原稿の確認をしたり、逆質問の内容を考えたりしていました。

自分が評価された、見られていると感じたところは？

ミハイル：自分の就職活動の軸に沿って、ブレずに自分のことを伝えられたことが評価されたと感じます。また、大学時代所属した部活動の中で、どんな役割を果たしてきた人なのかを見られていたように感じました。

トサッコ：表情や話し方はよく見ていただいたかと思います。相手の話にリアクションを取るようにしたり、大事な内容の時はより大きくはっきり喋って緩急を意識して話しました。他には、自分の専攻分野をふまえて環境問題に言及できたのも良かったかと思います。

官庁訪問を受けて、環境省へのイメージは変わった？

ミハイル：変わりません。説明会でも官庁訪問の時でも、他の省庁より先を見て、派手ではなくても愚直にやるべきことをやっていく印象を受けました。

トサッコ：イメージは大きく変わりませんでしたが、職員の方たちとお話をして、思っていた以上にやりがいあふれる面白い職場だと感じるようになりました。

志望者に向けて一言

ミハイル：官庁訪問で思う存分自分を出せるよう、この情報を参考に早めに準備してもらえたら嬉しいです。応援しています！

トサッコ：自分の想いをぶつけること、官庁訪問はそれに尽きると思います。自分らしさと決意、自信をもって頑張ってください！

おわりに

ここまで読んでいただきありがとうございます。

いかがでしたでしょうか。本書は構成から内容まで、すべて内定者が主体となって作成しております。その分、ひとりひとりのプロフィールや生の声に焦点を当て、就活生にとって身近な「内定者の声」になるよう努めました。

本書が就活生の参考となり、自身の希望に叶う進路への一助となれば幸いです。

2020 年 12 月 環境省一般職理工系内定者一同